

高知県立美術館を飛び出し、赤岡町へ！

2010年のピアノパフォーマンス「ソニック・タペストリーIV」当館能楽堂公演で記憶に新しい、ピアニストで音楽家、美術家と多くの顔を持つオランダ在住の向井山朋子さん。音楽演奏の枠にとどまらず、音楽とダンス、映像、写真などを組み合わせた空間そのものを作りだす作品を国内外の芸術祭などで積極的に発表しています。今回は、赤岡町の古民家を舞台にしたパフォーマンス「HOME」を約2週間に渡り上演します。これまで2カ国3都市で上演し好評を博した本作の、創作背景や今回会場となる「赤れんが商家」を紹介します。

第一線で活躍するアーティストとの共演

ネザーランド・ダンス・シアター(NDT)での活躍をはじめ、世界で名だたる振付家の作品に参加する湯浅永麻さん。ミラノサローネの〈シチズン〉のインスタレーションなどでテクニカルディレクターとして活躍し、多くのプロジェクトからオファーが絶えない遠藤豊さん。向井山さんが絶大な信頼を置く最高の2人のコラボレーターが結集し、「HOME」が作られました。

「HOME」の作品背景

私たちがこの世に生を受けて出会う、最初で最小の社会「HOME」。外に出て世界を知り、再び戻る「HOME」は、年を追うごとに変容する不確かな存在でもあります。国境も表現領域も横断する向井山さんの現在の拠点オランダでも、近年欧州全体が抱える難民の「第二のHOME(故郷)」やホームレスの課題に直面し、「HOME」は必ずしも安住の地ではなく危うさを含むことを暗示しています。いつもは見えにくく、でも近くにある「HOME」にまつわる問いをスケッチに描きながら、ダンサーの身体を借りて古民家を舞台にした作品に仕立てていきました。



HOME

向井山朋子・演出

文◎松本千鶴(当館企画事業課主査)

4月30日(月・祝)～5月6日(日) ①13:00 ②15:30
5月8日(火)～5月12日(土) ①11:00 ②14:00
全18公演(休演日: 5月1, 2, 7, 10日)

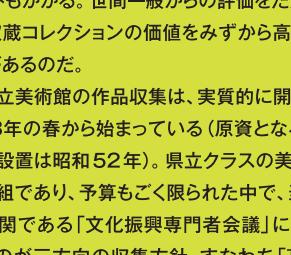
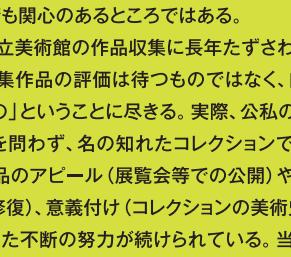
会 場 / 赤岡町・赤れんが商家 香南市赤岡町772-1
入場料 / 一律500円(絵金蔵特割あり)

*予約は美術館Webサイトまたはお電話より。

価値観の揺らぐ時代を生きる 運び入れる“想い”で完結する「HOME」

赤岡町に足を運ぶ小旅行からはじまる本公演。この会場と「HOME」が降り立つ時間、お客様が運び入れる想いが交流し、どう共有されていくのかに本作の醍醐味があると向井山さんは語ります。

ダンサーの気迫が直に伝わる距離に招かれ、舞台と客席の境目が歪むような緊張感に「HOME」の価値観が揺さぶられていく、そんな稀有な観劇体験をぜひ楽しんで頂きたいと思います。



向井山さんも一目惚れ!

香南市赤岡の赤れんが商家にて上演

昨年10月、来高した向井山朋子さんと技術監修の遠藤豊さんが一目惚れで会場に決定した「赤れんが商家」。初代赤岡村長邸やたばこ屋さんを経て、現在は高知工業高等専門学校北山研究室や地域住民有志らが発足した「すてきなまち・赤岡プロジェクト」による文化・芸術発信の拠点となっています。向井山さんもお気に入りの風情ある町屋の町並みは、昼下がりのお散歩コースにもおすすめです。

〔HOME〕写真 ©Yutaka Endo

Collection-vol.100

CURATOR'S COLUMN

作品を収集すること— 高知県立美術館の作品コレクション

文◎松本教仁(元当館学芸課長補佐)

「ウチに先祖伝來の雪舟の掛軸がある。鑑定してほしい」とか、「ビカソラしき版画を持っている。いくらで売れるだろうか?」等々、当館学芸課にちよちよく問い合わせの電話がかかってくる。自宅で眠るお宝の類にいか程の資産価値があるのか、有名なテレビ鑑定番組の影響ならずとも、誰でも関心のあるところではある。

高知県立美術館の作品収集に長年たずさわって感じるのは、「収集作品の評価は待つものではなく、自分で高めていくもの」ということに尽きる。実際、公私の美術館、コレクターを問わず、名の知れたコレクションでは、所有者による作品のアピール(展覧会等での公開)やメンテナンス(保存修復)、意義付け(コレクションの美術史的性格付け)といった不断の努力が続けられている。当然、維持管理のコストもかかる。世間一般からの評価をただ待つのではなく、収藏コレクションの価値をみずから高めていくたくましさがあるのだ。

高知県立美術館の作品収集は、実質的に開館の約2年前、平成3年の春から始まっている(原資となる高知県文化基金の設置は昭和52年)。県立クラスの美術館としては最後発組であり、予算もごく限られた中で、当時の第三者諮問機関である「文化振興専門者会議」においてまとめられたのが三方向の収集方針、すなわち「高知に縁のある作家作品」、「マルク・シャガールの作品」、そして「表現主義的傾向のある作品」である。

予算は乏しかったが、タイミングに恵まれた。開館までのわずか2年の間に表現主義的傾向のある作品としてキーファーやバゼリツ、シュナーベル他による基準作クラスを収藏でき、開館後にバスキア、ヘリング、リヒター、パロウズなども加わっている。いずれの作家も現在では価格的に入手困難だ。加えて、高知の「絵金」(絵師金蔵)作品を取り巻く環境と評価も、当館の絵金展開催前後から高まりを見せ、今では土佐近世美術を代表する絵師として定着している。

以上、時勢の変化に一喜一憂することなく、落ちていた長い目で当館コレクションを磨き続ける地道な努力がこれからも必要である。

〔表紙作品〕石川直樹[K2](2015年) [発行]高知県立美術館 [発行日]2018年4月10日 [デザイナー]タケムラタサインアンドプランニング

編集後記 Editor's note

今年度、高知県立美術館は開館25周年を迎えます。その記念として、いの町在住のデザイナー大賀美穂さんに新しいロゴを作っていました。当館に来たことがある方ならピンと来るかわいらしいロゴです。新しいスタッフも加わり、4月から新体制がスタート! 今年はこのロゴとともに歩んで参ります。

編集担当◎長山美緒(当館主任学芸員)

高知県立美術館

THE MUSEUM OF ART, KOCHI

781-8123 高知市高浜353-2 ☎088-866-8000 □088-866-8008 http://moak.jp

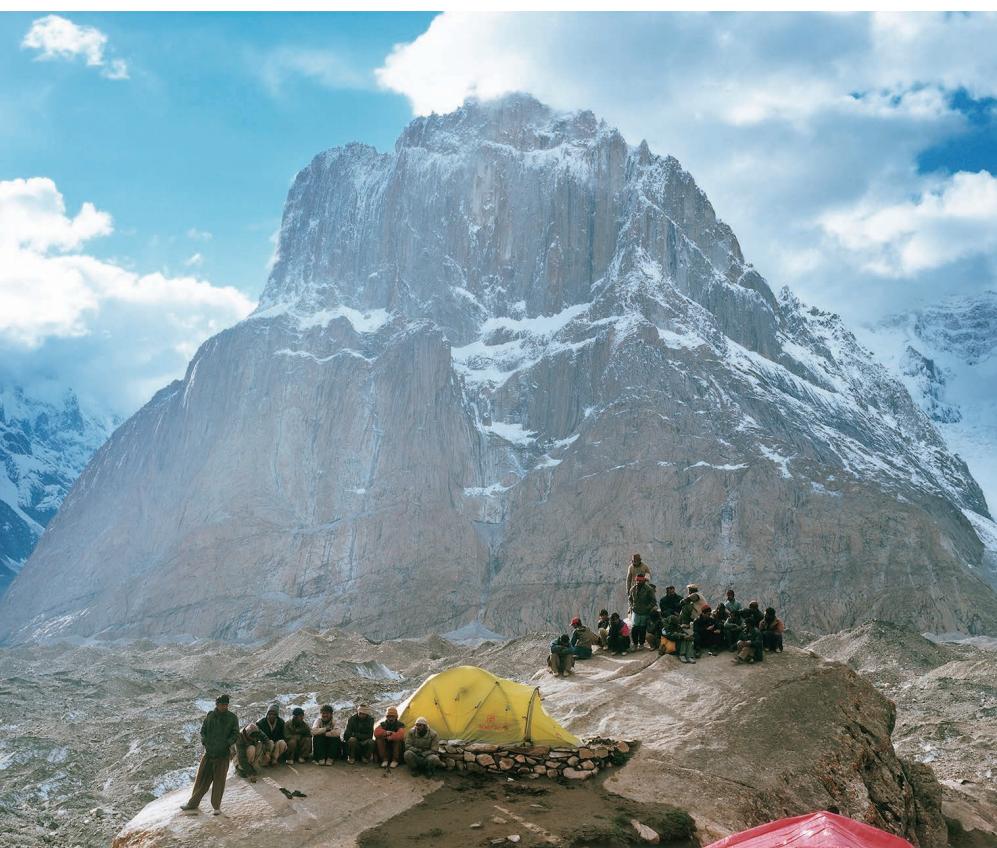
■

高知市高浜353-2 JR 高知駅 高知自動車道 高知インターチェンジ

高知東部自動車道 高知インターチェンジ 高知東部自動車道 高知東部自動車道 高知東部自動車道 高知東部自動車道

高知東部自動車道 高知東部自動車道 高知東部自動車道 高知東部自動車道 高知東部自動車道 高知東部自動車道

石川直樹
地球を歩く



100
2018年4・5・6月

